

授業評価・授業研究報告

美術教育講座・福井一真

1 本授業について

本授業は平成 23 年度前学期の水曜日 4 限にある教職科目 A の「初等図画工作科教育法」である。受講者は教育学 14 名、教育心理学 10 名、幼年教育 7 名、音楽教育 4 名、英語教育 8 名、聴覚言語 11 名、発達 13 名、その他の学年 4 名の計 71 名であった。

2 授業の目的

本授業では小学校図画工作科を担当するために、図画工作科の目標や内容を理解し、教材の開発や指導方法などの学習指導にかかわる実践力を身につけることを目的としている。本授業の到達目標は以下のように設定した。

(1) 小学校図画工作科における各学年の目標や内容を説明することができる。

(2) 子どもの発達特性を踏まえた教材開発や授業設計の方法を身に付ける。

(3) 模擬授業を通して図画工作科を担当するために必要な実践力を身につける。

3 授業を行う上での工夫

本授業は小学校の図画工作科における指導法などの実践力を身に付けることを目的としているため、今年度は特に、座学での理論的な学習だけでなく、体験的な活動を取り入れ、実践と理論の往還を図れるように授業スケジュールを組むことを意識した。また、学生が主体的に受講できるように、授業の中で学生に声をかけるなどを心がけ、受講する「環境」にも配慮を行った。

前半は素材体験として「ライン」、「新聞紙」、「段ボール」といった素材を取り上げ、それぞれ活動を行った。ただ活動をするだけでなく、それぞれの活動後に活動の振り返りと学習指導要領の解説を取り入れることで体験的な学びと理論とを結び付ける工夫を行った。

中盤は造形遊びを主軸とした子どもの「学び」について、子どもが活動している実際の映像などを取り入れて解説を行った。これは、子どもの「学び

や発達に目を向けさせることで、後半の模擬授業を考えるための視野を深めることをねらいとした。

後半は前半、中盤での学習の集大成としての模擬授業を学生主体で行った。模擬授業は各専修を中心としたグループを 9 チームづくり、その 9 チームを低学年チーム、中学年チーム、高学年チームと 3 チームずつに分けた。さらに、模擬授業の内容を分散させるために、3 チームがそれぞれ「絵や立体に表す活動」、「工作に表す活動」、「鑑賞の活動」を分担して行うことで、全学年の全内容を網羅する工夫を行った。また、模擬授業の際には、「授業者」チームと「児童役」チーム、「観察役」チームに分け、授業後にそれぞれの立場から模擬授業についてのコメントを書かせて、授業者チームに配布した。授業者チームはそのコメントを指導案の改善に取り入れて、改めて指導案を作成して提出することとした。こうすることで、ただ模擬授業を行うだけでなく、模擬授業を振り返る機会を設定することで、理論と実践の往還を促進させることをねらいとした。

4 授業アンケートの結果

授業アンケートは平成 23 年 7 月 27 日に実施した。アンケートは受講者数 71 名のうち、回答を得られた 70 名のものを参考にしている。

【学生の意識について】

授業全体について、「総合的にこの授業は満足だった」という設問に対しては「まあまああてはまる」と回答した学生が 17 名、「とてもあてはまる」と回答した学生が 52 名、「あまりあてはまらない」が 1 名であった。70 名のうち 69 名が授業について満足しているという結果を得た。さらに、「授業を真剣に受講した」という設問には「まあまああてはまる」が 29 名、「とてもあてはまる」が 40 名、「あまりあてはまらない」が 1 名という回答を得た。この結果から、多くの学生が主体的に授業に取り組んでいたことが伺える。

【印象に残っている講義について】

「全授業の中で印象に残っている学習内容」についての設問では模擬授業が 55 名、素材体験「ライン」が 44 名、素材体験「新聞紙」が 43 名、素材体験「段ボール」が 38 名、学習指導要領と「学び」の事例が 17 名と上位を占めた。模擬授業は全講義の最後に実施しているため、比較的多くの回答を得られたとも考えられるが、中には

- ・模擬授業を受けるのが新しい発見があり楽しかった
- ・模擬授業は学年別、領域別に行うことでそれぞれの授業アイデアを吸収することができました
- ・みんなからのコメントも見れて勉強になりました

といった、肯定的な回答も多くみられた。これは、学年や領域を細かく分けたことや、授業者に対してコメントを書くといった「授業の工夫」が、学生の「学び」を深めるといった結果を生み出したともいえるのではないだろうか。

「素材体験」については、座学ではなく造形活動であるため、印象に残っている学生が多かったとも捉えることができるが、以下のような「理由」もみられた。

- ・実際に自分がやってみることで児童の視点から考えることができた
- ・一言でいうと楽しかった。自分が受けて楽しい授業は内容までしっかり覚えているものなので、子どもたちにも楽しい授業をすることは重要であると気付いた。

このように素材体験は「子どもの視点」で授業を受けることで、授業をつくる際の視点や考え方の広がりやを促していたともいえるのではないだろうか。つまり、単純に「楽しかった」だけではなく、図画工作科の授業を考える上での視野を広げる役割も果たしていたのである。

【授業全体について良かったと思う点】

「総合的に判断して初等図画工作科教育法の良いと思う点について記述してください。」という設問には、以下のような回答が多くみられた。

- ・理論的なことと実際に体験して学ぶことが組み合わせれていた点
- ・学習内容のバランスがとても良いと思う。(実際にやる、話し合う、指導要領についてなど)

- ・授業を通して体験的に学ぶことができる。
- ・図工において大切なことを実践的に学べた気がします。

・理論と実践の両面から図工をみることでできた 25 名の学生が「理論と実践」に関する上記のような回答をしていた。これは、「理論と実践の往還」という授業全体のねらいが功を奏したともいえるだろう。

その他に、「授業の雰囲気について」の回答も多くみられた。回答の内容は概ね以下の通りである。

- ・先生の話し方や雰囲気からとても楽しく意欲的に授業に取り組むことができた。
- ・先生や学生との対話があり学びと気持ちがあがる

15 名の学生が授業の雰囲気がよかったと回答していた。学生が主体的に学べる「環境」について心がけていたことが、一部の学生にとって、反映された形になった。こうした「環境」づくりは大学の授業だけではなく、図画工作科にとっても重要な要素になるので、今後も意識し続けていきたい。

5 次年度への課題

アンケートの「本授業の改善点について」という設問の回答は次年度への課題となるだろう。

- ・講義でパワーポイントを使って説明するときゆっくりと解説してほしい
 - ・スライドを変えるのが速かった
 - ・スライドがはやくて先生が話すことをメモすることもできないし、なかなか頭に入らなかった
- といった回答が 13 件あった。これは授業者としての反省点である。パワーポイントのレジュメを準備することや、学生に伝わるようにゆっくりと話すなどの改善を行う。

次に、「模擬授業がちょっとあわただしかった」といった、模擬授業の時間設定に関するものが、6 件みられた。これは、授業スケジュールを調整して、各チームの模擬授業の持ち時間を増やすなどの改善を図りたいと思う。その他にも「受講者数が多い」と「教室がせまい」、「レポートは早めに通知してほしい」などの回答があった。次年度ではこうした課題を改善していくことで、授業の目標や到達目標を見据えた授業の構成をしていかなければならない。